

# 令和2年度オリパラ教育の取組について

益田市立美都中学校

## 〇ねらい

- ・昨年度の取組成果や共生社会実現への思いを引き継いだ生徒会が主体となって、自分たちにできることを考え、活動を重ねることで、生徒たちに少しずつ自信をつけ自己有用感をもたせる。
- ・障がい者理解を深めるとともに共生社会の構築に向け、自分たちにできることを考え実践する態度を養う。
- ・パラリンピック競技について調べたり競技の体験をしたりすることで、パラリンピックの理念や価値を学ぶ機会をつくり東京大会への機運を高める。

## 〇これまでの成果

・アギトス財団および国際パラリンピック委員会により「参加証」授与6/30  
 パラリンピック教育プログラム『I'mPOSSIBLE』を通じた貴校の努力と功績を称えるとともに、貴校が今後もインクルーシブな世界の実現に向けて、次世代を担う一人ひとりの意欲を高めていくことを期待します。



・7月 日本女子体育連盟機関紙『女子体育』  
 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム  
 福田佳太 氏 による取組紹介

**授業実践**  
**オリンピック・パラリンピック教育の実践について**  
 ～スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の事例から～  
 筑波大学体育系 非常勤研究員 福田佳太

た。単元の導入として、国際パラリンピック委員会(IPC)公認教材である『I'mPOSSIBLE』を活用して、パラリンピックやシッティングバレーボールへの興味関心を高めながら、知識や理解が深められた。実践では、ボールをバントとして座った状態で移動するリレーやその状態での円陣パス、簡易的な試合形式のゲームが行われた。バレーボールの単元内でシッティングバレーボールを実践することで、生徒たちはバラスポーツの楽しさや楽しさ、パラリンピアンたちの高さを実感することができた。実践後の生徒たちの感想では「バラスポーツは、障がいがある人しかできない特別なスポーツだと思っていたけど、今回体験してみても、障がいの有無に関係なく誰でもできるスポーツだとわかった」「健常者とか障がい者とかそんな『壁』はないことがわかった」と述べられており、多様性の尊重、共生・共助社会の実現をしようとする心構えを養うことにつながったと報告されている。また、シッティングバレーボールは単元の中で扱いやすい教材であったと報告されていることから、大会終了後も継続できる取組の一つであると考えられる。



試合形式での実践の様子

実際に選手たちと交流することで、パラリンピックやアイルランド、パラサイクリングへの興味関心が高まっただけでなく、練習やパラリンピックに対する選手の強い意志に触れた生徒からは「自分の心を強くもつことが大切だと学んだので、私も心を強くもって勉強も部活も真剣に取り組みたいと思う」という感想が述べられた。また、担当教員によれば、この交流会は生徒会が中心となり企画したことや、選手一人一人に英語で書いた応援メッセージを渡したことで、ホストタウンとしてのおもてなしもすることができたと報告された。交流会の最後には選手から「美都町の魅力を知ることができてよかった」と感想が述べられており、生徒だけでなく選手にとってもかけがえない体験になったと考えられる。



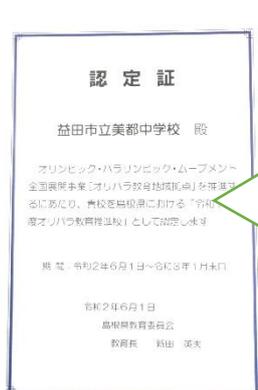
選手との交流の様子



ハンドサイクル体験の様子

## 〇今年度も

・令和2年度オリパラ教育推進校認定



オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業【オリパラ教育地域拠点】を推進するにあたり、貴校を島根県における「令和2年度オリパラ教育推進校」として認定します。  
 期間：令和2年6月1日～令和3年1月末日

今年度の認定校は…

美都中 湖南中 大田三中  
 出雲郷小 日貫小 久屋小  
 柿木小 の7校です。

## ○今年度の主な活動

★7月13日(月) 全校朝礼時 オリエンテーション (今後の活動の見直しをもつため、担当より説明)

### 1 体育祭「やってみよう 東京2020パラリンピック種目 Part2 (シッティングバレーボール)」【鳥屋】

体育でシッティングバレーボールについて学んだことを保護者に紹介

7月13日(月) 6校時から6時間の「全校体育」で。

### 2 文化祭「応援するぞ パラリンピック!いちおし種目をみんなにアピール」【羽柴】

一人一種目決めて調べ学習したレポートを文化祭で展示発表

7月17日(金) 6校時 (推し種目決め、調べ学習のしかたを説明、図書資料等を見る)

7月29日(水) 各学年別の時間 (調べ学習…図書資料、パンフレット、タブレット活用 夏休みの課題の説明)

### 3 パラリンピアンによる講演・交流活動 (2学期) 【吉村】

アスリートの話や交流を通して、自分の生き方を考えたり将来の在り方につないだりする

候補者1 **道下美里さん** ↓道下さんの所属企業へ「こんにちは美都中学校です」の後半

道下美里さんのお話が聞きたいと言い出したのは、陸上部の顧問の吉村友香教諭です。実は、昨年度から言い続けていました。彼女はマラソンが好きで、萩石見空港マラソン、東京マラソン、下関海響マラソンなどいろいろな大会に参加して自分の記録を伸ばしています。防府読売マラソンでは、道下さんと並走することもあったと聞きました。海響マラソンでゲストランナーとして参加された道下さんがコントを披露して会場を沸かせみんなを盛り上げたこと、マラソンを一緒に走っているとき、沿道からの声援に笑顔で対応しみんなの思いに応えようとする姿などから、道下さんの小さい体の中にある「周りを元気にさせるパワー」に驚き、すごいと思ったことなどを教えてくれました。

吉村教諭から話を聞いた後、昨年購入した図書『パラリンピックのアスリートたち 可能性は無限大』を読んで、私自身も道下さんの話を聞きたいという思いは強くなりました。昨年の思いを受け継いだ3年生たち、特に陸上部の3人の男子(3年生男子はこの3人しかいません)は、「道下さんが来てくれるかもしれない、実現したらどうする?」と伝えると大喜びして、「吉村先生に話を聞いてから、ぜひ僕たちも話が聞きたい!」と思ってました。頑張れる秘訣、これまで試練をどう乗り越えてこられたのか…など聞いてみたい!」と言っていました。本校の生徒たちは素直で何事にも一生懸命取り組みますが、自己肯定感や自己有用感が低い生徒が多く、自分から前に出ることを嫌がります。私たち教職員は、生徒たちが学んできたこと、経験してきたことを自信に、大きな世界へ胸を張って飛び立ってほしいと思いつつ、いろいろな活動の計画を立てているところです。そういう意味でも、吉村教諭から聞く道下さんの人となり、「可能性は無限大」という本のタイトル、本に書かれているこれまで歩まれてきた道…すべてが、ぜひ本校の生徒と出会わせたいと思わせるものでした。

お忙しい毎日、しかもコロナ禍での練習で、いろいろと見通しの立たない中かと思いますが、美都中学校にお越しいただき、お話しいただければ嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。



候補者2 **小池岳太さん** (パラ・アルペンスキー、パラ・サイクリング LW6)

- ・長野県岡谷市出身、日本体育大学社会体育学科卒
- ・トリノ・パラリンピックからパラリンピックに4大会連続出場、ソチ大会では9位。
- パラ・サイクリング(C5)にも挑戦し東京大会への出場を目指している。

### (4 2年生 総合的な学習の時間 ユニバーサルデザインの「つも」づくり 【2年部】)

共生社会に向けたふるさとの現状を見つめ、ふるさと都茂の良さに気づくとともに、すべての人がよりよく生きることのできるふるさとにしていくために、自分たちができることを考える

## ○来年度に向けて

- ・各活動の振り返りはそのつど行う。(オリパラ教育推進校 筑波大学アンケートへの協力)
- ・来年度は、新型コロナの影響で1年延期した東京への修学旅行(2, 3年一緒に)も良い機会としながら、東京大会への機運を高めるとともに、共生社会の実現をめざし、ふるさと教育、人権教育にも力を入れて取り組んでいく。